

令和元年度境港市原子力発電所環境安全対策協議会

■ 日時：令和2年2月18日（火）15時30分～

■ 場所：境港市保健相談センター講堂

■ 日程

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

- ・島根原子力発電所周辺空間放射線量率（県内モニタリングポスト）の測定結果について
- ・令和元年度原子力総合防災訓練の実施状況について
- ・島根原子力発電所2・3号機に係る審査状況報告及び安全対策について（中国電力株式会社より説明）

4 閉会

■ 出席者（別途出席者名簿参照）

■ 会議録（要旨）

1 開会（大道自治防災課長）

2 会長：中村市長のあいさつ

3 会議録（要旨）

<事務局>

「島根原子力発電所周辺空間放射線量率（県内モニタリングポスト）の測定結果について」説明

「令和元年度原子力総合防災訓練の実施状況について」説明

<委員>

数年前に自治会において避難先確認訓練を行ったが、地元自治会との意見交換ができなかった。東日本大震災の時も差別的な言動等もあり、やはり受け入れ側への啓発を行うべきだ。地元の自治会と友好関係を作りたい。県への要望にもなるが、地元との意見交換会や友好関係ができるようなことをぜひお願いしたい。

<事務局>

市と県と毎年度1程度の自治会が行っている。今年度は、夕日ヶ丘1丁目の自治会が岩美町へ行った。今回は、地元自治会の方とお話することができたが、多くの住民の方との意見交換まではできなかった。来年度も予定するので、要望については、県、受け入れ側の市町と調整を図りながら、充実した訓練にしていきたいと思う。

<委員>

この度は、さまざまなことを、OIL2 にははまる条件で訓練をおこなった。屋内退避、一時移転であるが、放射性物質は、目に見えないので、今が具体的にどんな状況であるか理解できないのではないかと。訓練想定について説明を。

<事務局>

今回は、複合災害とのことから、まず地震の対応、そして、島根原子力発電所の事故の進展に応じ対応した。この度は、OIL2 を想定し、モニタリングポスト等の値から屋内退避、該当地域による一時移転への一連の流れを確認した。

<委員>

20 マイクロシーベルトというのは、具体的にどういう風に影響をあたえるのか。わからない。シーベルトとか、どれくらいが危ないとか、安心なんだということを教えないとパニックになる。

<事務局>

屋内退避を行い、モニタリングし、20 マイクロシーベルトという測定値が出た場合、1 週間以内に移転していただく。20 マイクロシーベルトというのが、人体にどれだけ影響を与えるのかとのことだが、X 線の検査（3000 マイクロシーベルト程度）と比べてもかなり低い。専門的な説明はなかなかできないが、(X 線と) 比較すると、この値は、低い放射線量と思っている。

<会長>

専門家などの意見もお聞きして、もっとわかりやすく、まとめてみたいと思います。

<中国電力>

「島根原子力発電所 2・3 号機に係る審査状況報告及び安全対策について」説明

- ・安全対策への取り組み
- ・島根 2 号機適合性審査の状況
- ・S+3E 同時達成（電源構成バランスの達成） 等

<委員>

1 号機の廃炉経費、それから 2 号機もいずれは廃炉となり費用もかかる。火力発電の割合が高いが、CO2 を排出したくないという観点、より安全に（再生可能エネルギー）すれば、少なくともテロ対策はいらない。また、原子力発電を減らすというのが、世界の流れででないか。やめようとするのはなぜか。

<中国電力>

福島原子力発電所事故前は、全国の約 3 割が原子力発電であった。今 9 基が運転可能だが、割合としては非常に少ない。代わりに務めたのがガス。中国電力は、石炭による火力発電の割合が高い。値段は、1kwh（キロワットアワー）あたり、石炭 5 円、ガス 15 円。原子力だと 1 円程度。環境特性 CO2 の排出割合は、石炭が一番多い。ガスは石炭の半分以下。CO2 を出さない電気を皆さんにお届けする必要があるが、一番 CO2 を出さないのは、再生可能エネルギー。あと原子力発電。太陽光発電は非常に

伸びているが、全て再生可能エネルギーでは供給が安定しない。「停電させない」、「価格」、「環境問題」、それぞれ一長一短はあるが、基本的には、国が示した比率でミックスさせるのが、もっとも望ましい電源構成だと考える。2030年目標であるが、世界では2050年CO2フリーを目指す。石炭等が使えなくなるその時に、本当に再生可能エネルギーだけで社会が成立するかどうか、そのためにどれだけコストをかけていくか等課題がある。皆様からのご意見をいただきながら、電力会社も引き続き努力をしてみたい。

<委員>

廃炉にかかる費用はどれくらいか。試算はあるかもしれないが、完全に解体し、元に戻すという段階までを含めたときにさまざまなリスクがあるなかで、いいか悪いかわからない。

<中国電力>

解体実績は、国内でもある。海外でもかなりある。特に1号機の燃料は全く壊れていない。燃料さえしっかり出してやれば普通の解体工事。しかし、放射性廃棄物がでる。その処分費用が不確定なところがある。廃炉の見積もりでは、1号機では380億円くらい。2号機は、650億円くらい。解体費用は、随分前から積み立てをしており、1号機に関しては、ほとんど積み立てが完了している。2号機に関しても進んでいるが、不確定要素があり、本当にこれで終わるかどうかわからないところがある。しかし、法制度的、技術的にも、しっかりと制度設計しているので、安心していただければと思う。